

2025年2月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 2月えんだより

2月の聖句「わたしは弱いときにこそ強いからです。」

コリントの信徒への手紙Ⅱ 12章10節

2月に入り、節分、立春と暦の上ではもう「春」ですが、まだまだ厳しい寒が続いています。「寒い！」と言いながらも、昔から「こどもは風の子」と言われているようにこどもたちは外で走り回って遊ぶのが大好きなようです。とはいえ、中には体調を崩しているこどもたちもちらほら……。こどもたちの「外で遊びたい！」という気持ちを大切にするためにも、体調管理に十分気を付けながら過ごしたいと思います。

346,482名。これは2023年度に学校を30日以上欠席した不登校の児童生徒数です。10年前と比較すると、小学生で5.4倍、中学生では2.3倍に増加しているそうです。不登校の理由は様々なのですべてをひとくくりに捉えることはできませんが、「何としても学校に行かなければ（行かせなければ）」から「無理に学校に行かなくても（行かせなくても）」へと世間の価値観の変化も影響しているように思います。

もう一つ、気になる数字があります。527名。先日、厚生労働省が警察庁の統計を基にまとめた2024年の自ら命を絶った小中高生の数です。このニュースを伝えていたあるアナウンサーが、「死にたくなったら逃げるしかない。…恥ずかしいことではないのでとにかく状況から逃げてください。…どうぞ自分の命は大事にしてください。」と語っていたそうです。

「学校に行けない」、「もう生きていけない」という状況になった理由は様々だと思います。「学校に行けない」という状況からは「学校に行かない」という選択肢が「逃げる」という弱さとしてではなく、危機回避する「強さ」として世の中の価値観が出来上がってきているように思います。一方、「もう生きていけない」という状況からは「何としても生きる」という選択肢が危機回避する「強さ」という価値観がまだまだ世の中で熟成されていないように思います。

神様は、私たち人間の「弱さ」をよくご存じです。そして、その「弱さ」こそ大切であることの証としてひとり子イエスを私たちのもとに送ってくださいました。「弱さ」の中にある「強さ」を示されるために。すべての人々が「弱さ」を受け入れ、その中にある「強さ」に気づき、神様から与えられたいのちを大切にできる歩みを続けられればと思います。

よろこびが集まったよりも、悲しみが集まった方が、しあわせに近いような気がする。

強いものが集まったよりも、弱いものが集まった方が、真実に近いような気がする。

しあわせが集まったよりも、ふしあわせが集まった方が、愛に近いような気がする。

星野富弘 作

2月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	みんなだいすき/そうなんだ	響き合う
月の願い	- 冬の自然を感じながら遊ぶ。 - 保育者の祈る姿を見て一緒に祈ろうとする。 - 自分の言葉で神さまとお話してみる。 - 友達と関わる中で、色々な思いに触れ考える。	- 気の合う友だちと遊び、気持ちが通じる楽しさを感じる。 - お互いに存在を認め合い、相談しながら、時間をかけて思いを実現していく過程を楽しむ。 - 冬の自然の中に、次の季節への備えを知る。
讃美歌	「きょうも みんなに」 こども改105	「きゅうこんのなかには」 こども改135